

るやうに、單り、知識的開發を以て性教育に充てむとすることは大なる誤りであり、人間の強き性的衝動が知識の指揮に服すると考へることは餘りに淺慮である。然り、確實なる性慾教育は知識と共に感情をならし、意志を抑へなければならぬ。性教育の基本は知的教育でなくして、寧ろ感情教育並びに意志教育である。茲に於て、マルキウス氏は感情と意志とを以て性教育の基本としやうとする。私も無論氏の正しいことを認めるに躊躇はしない。が、併し、私の正しいとするところのものは、倫理的動機及び意義の上に立てられたる性的知識の教授そのものである。そして、それは、私に於てはマルキウス氏及びフェルスタア教授よりも正しい見解であると信ずる。

性慾教育と青春期 さうすれば、宗教家教育家及道德家の責任が加重することになるわけである。青春時代は生理及心理の兩面に對する新發見の時期である。生理的には青春の凡ゆる特徴が現はれるが、この關係を通じて、生理的な

煩悶と云ふものが生ずる。併し、今日の青年男女には、性的知識に於ては斷片的な而も不健全なものあるに過ぎないのだから、この種の生理的懊惱や煩悶を解決することは如何にしても出来ない。

尤も、青春時代に於ての生理的煩悶は一般的のものでもあり、又個々人に即した特殊なものでもあるから、これに對しては、かゝりつけの醫師(道德的な)につき各自個別的に相談を遂げなければならぬ。が、今日チヨン醫者流の性的知識一切不淨と云ふ流儀では、これを解決するに由なく、エリス氏の言ふ如く結婚は屢々強姦と同一だと云ふ奇現象を生ずる。結婚より生ずる幾多の悲むべき又笑ふべき喜悲劇は一に性慾教育を否定することから來る。性的知識を得る方法がないので、一瞬にして知了し得る如き簡單なる事情が一生の大半を要する實狀にある。而して、これがために、不健全で反道德なる現象が紛生するのである。

これは、單に生理的側面ばかりでない。心理的にもさうである。青春時代は生理的發達の時代であると共に心理的發達の時代でもある。戀愛の感情がいつこともなく湧き出で來ると、無私な博愛の精神が現はれ、義務の觀念熾烈となり、美的觀念發達し、道德及宗教に對する渴仰が強く深くなる。それで、この事情を、利用して義務と無私と正義と信仰とを鼓吹すべきである。こゝが性慾教育の重點である。性的知識の傳授を危険とするのは、嚮きに述べたやうに、單なる知識啓發を意味するからである。知的啓發に於ては、生理的なるウアンダア即驚異は取り除かれやうが、心理的心靈的なローマンチックな感情を如何にしても排除し得ることは出來ない。青春の血潮が焰々として猛威を逞ふし得る状態に於て、單なる醫師や、母親や、教師の生理的衛生的解説位では、如何ともなし難いのは明かである。それで、青年男女の教育は道德及宗教を重點とするものでなければならぬ。義務の觀念の濃厚となる時に於て、道を談じ法を

説くのは、教育家宗教家として一舉奏功する所以たるのみならず、青年をして性の暗礁を犯さざらしむ妙法である。恐らく、性慾教育に反對する人々は、それを以て單なる知的なエンライツメントと心得るがためであらう。

性慾教育と優生學 今日、恐らく、女學校に於て教ふる最も重要な學科の一つは、優生學一班であらうと考へる。私の知つて居る範圍では、纔かに、東京第一高等女學校に於て同校長市川源三氏の創意により、上級生に同氏自ら優生學的知識を與へらるゝ外、何等企畫せらるゝなしと云ふ慘狀である。未だ、一般女子教育界は昏睡の状態で、殆むど、此の種の知識の何を意味するやを知らないと云ふ大古草昧の状態である。尤も、例外として、立派に進歩したのも多少あるのは無論である。それがために、某醫師の東京に於ける女學生間の花柳病蔓延に關する證言ともなる所以である。茲に於て、私は現今の少青年男女の性的混亂及び廢類は一般社會の責任であると斷乎として聲明する。そして、

特に、今日の學校が未だ一般に進歩した見解を有たず、無理解で進むで居るところにも責任があらうと思ふ。多數の青年男女を預つて居ながら、春期發動期の豫備として、最も必要なる性教育を暗示もしないと云ふことが、今日の學校特に女學校の通弊であると云ふに至つては、吾人は轉た嗟嘆を禁じえない。併し、今春の全國高第女學校々長會議には性慾教育問題も持ち出され、尙ほ、一般に、教育界の議題ともなりかけて居るさうであるから、我等はその前途に對し、一つの期待を以て眺めえられる譯である。而して、一般世間が未だ此の問題の重且つ大なるものであることを知らない形勢に對しては、我等は警鐘を亂打し、その惰眠を呼び起さなければならぬ。

性慾と強壓 法律と警察とを以て、性的危險を鎮壓することは出来るものではない。その種の高壓手段は形ちを制して心を制せざるものである。猥褻なことをしてはいけない、婦人を凌してはいけない、誘拐してはならないと威した

ところで、既に猥褻な心根をもち、心で婦人を凌し、潜に誘拐の考へを有つと云ふのでは禍根既に備はり又如何とも致し方がないではないか。性慾教育は兩性の關係を形骸に於て整へるのではなく、更らに、精神に溯つて整へることを意味する。

性慾教育の方法 性的好奇は既に幼兒に於て生ずるから、この時期に於ては主として、母が簡單明白に科學者の態度を以て、性に關し、ありのままを教ふるが宜い。子供はよく子供の生れる由來を質疑するが、かゝる場合には、自己と子供との生理的關係を簡單に且つ淡泊に言ひ聽かせて宜い。子供の質問は自然で淡泊で大人の想像するやうなヘンな意味はない。自分から恥ぢらつて、捻ぢけた返答をしない方がよい。この種の質疑は凡て六歳までに片付けなければならぬと云ふのがエリス氏の意見である。モール氏の意見では、女子は性的發達が男子よりも早いから、多少加減しなければならぬ。この時期には、性の

専門的素養は母親になくもよく、至極簡単に答へてをれば宜い。若し、母親が子供の性開發を分擔したければ、何人かこれに與り、以て、不健全な知識を注入することゝなる。今日、性慾教育の疎外せらるゝために、如何程、我等の子女が廢類してゐるか分らない。

性的知識の開發には、動物によるよりも植物による方が宜い。植物により、性に關する總ての知識は開發し得られる。生殖の原理も一と通り會得せられるであらうし、性の性質、出生の理由等も略了解せられる。そして、極めて淡泊に自然にこれが成し遂げられる。併し、青春時期に於ては、短刀直入動物學生理學及解剖學によりて性の知識を教授するが宜い。こゝに、私は學校に用いる教科書には性に關する一と通りの解説を加へなければならぬことを特に注意する。わざと教科書より生理及解剖の性的分解を回避するのが現時に於ける一般の風潮であるが、斯様なチヨン醫は一日も早く切つて落さなければならぬ。

何故教科書に動物の生理、人體の生理及解剖上の祕密を紹介してはならないか。

青春時代に於ては、教科書ばかりでなく、この種の専門書を味讀してよい。濫讀するのではなく、材料供給の害を受けないやうな道徳的訓練を通じて味讀させなければならぬ。こゝでも、單なる知識は駄目であり、或は有害である。教科書と専門書との教育手段の外に性に關する講演を開くが宜しい。併し、この種の講演は抽象的であるから、個々人の質疑に答へ得るが如く各自醫師を訪問するが宜い。こゝに於て、近時世人の疑惑を招きつゝある醫師一般であるが無論、醫師を全體として疑ふのは餘りに馬鹿々々しいことである。そこで、醫師を選択することにし、主として、家付の醫師に就き啓蒙さるゝことゝして、特に道念堅固な人格者としての醫師を擇ぶが宜い。人間として醫師はたゞに生理を教ふると云ふやうな單純なものではなく、人格と文化とを備へた醫師を通じ

て、道徳的文化的感化を受けるが宜い。性教育者としての醫師は醫者であつて同時に完全な人間であらなければならぬ。醫師としての技術と共に、人間として立派なものが性教育者になり得る資格のある醫師である。今日、醫師に相談せよと言はゞ、戰慄する人々もあらうが、これは醫師を以て悉く色情狂となすものである。單に、大野の一事件を以て醫師全體を侮辱するのは餘りに兒戯に類する。女子はなるべく女醫に相談するやうにすれば宜い。恐らく、専門家としての醫師に對しては、父母にきく時のやうな羞恥を感ずることもなく、單に事實を事實として、科學的態度で問答をなし得る利便があらう。

性慾教育は家庭を中心とすべきもので、父母の擔當に屬するであらうが、今日の父母は性的知識に缺けて居り家庭は性に關しては一切之れ暗黒である。それで、我國現時の状態では、父母や家庭に於て、性慾教育を分擔することが出來ないと云ふ慘狀である。それなら、學校では、出來るか云へば、之又性慾

教育の用意を整へる時代に達せず、特に教職員にして未だ性教育の本質を了知せざる初手の人々が多いから、今日、學校で性慾教育をなすことは出來まいと思ふ。殊に、教場に於ける性教育者としての教師は、この種のデリケートな問題を取扱ひうる熟練と技術及性格の所有者でなければならぬが、斯様な良教師は蓋し極めて少ないであらう。若し、教師その人を得ないやうな場合には、一切學校では性を談じないが宜い。今日、性教育者としての醫師は大野一件より世間から疑の眼を放たれつゝある。これは、無論疑心暗鬼の類であるが、茲に於て、我國では、全體として、性教育適任者なしと云ふことになり、世は依然として暗澹たりである。歐洲でも性教育は未だ初期で、組織的な發達は今後に埃つ有様である。そこで、歐米でも、父母を教育して性教育者に仕立て上げやうとする運動が初まつて居る。我國に於ては、差し向き父母に對し、性の講習會を開く必要があらう。

歐米の性慾教育 世界を通じて、性的教育の方法論は未だ決して居ない。私は上述するところを以て、性慾教育を是認した譯であるが、その方法論に關しては、我國に於ては未だ眞面目に又徹底的に考へられても居ない。歐米に於ても未だ方法に關しては理論の時代で、實施の時期に入つては居ないのである。英國や、獨逸や、スカンデナビヤ、フィンランドでは、既に氣運が相當熟して居るらしいが、これ等さへも、これと纏まつた結論には到達して居ず、従つて、解案と云ふものも成立して居ない。

獨逸では、高等學校で性教育をやつて居るが、一九一一年にはプロシアに在る八百の中七十六校で性に關する教育を敢行した。教師校長或は醫師をして之れに當らしめ、生徒の出席は自由とし、性的放肆の結果だのアルコール飲用の慘害だの、及び、重に性的抑制の效果に就て解説した。我國でも、性の抑制の害或は益が一時論せられたが、プロシア教育者の性教育の重點は茲にあるらし

い。先づ、ザット獨逸を代表するプロシアの性教育の全體はこれだけのことである。つまり獨逸では、その初手として甚だ不完全なることを初め出したと云ふまでのことで、性慾教育は未だ、その緒にも就て居ないと見るが正當であらう。瑞典でもプロシア程度の性教育が高等女學校程度の學校で初められ、その上級生に對して性的啓發が行はれし居る。

文 籍

- 1 Foerster, F. W., *Sexualethik und Sexualpädagogik.*
- 2 Ellis, H., *Sex in Relation to Society, Studies in the Psychology of Sex, Vol VI*
- 3 Dock, L., *Hygiene and Morality.*
- 4 Zenner, P., *Education in Sexual Physiology and Hygiene.*
- 5 Leffingwell, A., *Illegitimacy*

第十九章 兒童と生活改善

生活の系統的研究 今日的生活改善は節約運動の結果として生れて來たものと解釋すべきである。一昨年あたりから、節約によつて國民生活を整理しやうとしたのであるが、これが、昨年の國民的運動となつて現はれた次第である。これは、國民的であるばかりでなく、國際的でもあり、戦後文明諸國一般の趨勢である。併し、節約は無論人類生活に對し消極的側面を代表するものであるから、これによりて、人間生活の全局を透徹することが出來ず、従つて、生活を全體として解決することは出來ない。そこで、生活改善と云ふ積極的のものとなり、これによりて、國民生活を一層完全に建設して行かうとするのであるかくて、生活改善よりもヨリ廣い國民生活それ自からの系統的研究になるわけである。

生活の目標 併し、今日、我々は人間生活を全體として研究する術を有しないのである。いづれの科學も生活の一部を解釋するのみで、生活それ自からを解釋いたさぬ。例へば、經濟學であるが、經濟學の我々に指示するものは物質的のもので、經濟的に我々が生活することの何なりやを考へるが、人間の生活は決して經濟學につきるものではない。従つて、經濟學は人間生活の一部を解説するが、生活の全體に觸れることは出來ぬ。宗教も、藝術も、矢張り、我々が信仰による生活をなし、乃至、美的生活をなさしめるが、それは、生活の一部たる宗教生活なり、美的生活を指示するのみである。この外、我々は經濟生活をしなければならぬ。全體として見られる哲學さへも、生活に對しては、部分的のもので、矢張り、生活の全體を解説するものではなからう。

然らば、生活を全體として解説するものがあるか、また國民生活とは何かと云ふことを系統的に解釋する學問と云ふものはあるかと言へば、遺憾なことだ

が、無いと言はなければならぬ。そこで、斯様な學問が今後發達し、生活を全體として研究するものが生れなければならぬ。てふど、數十年前社會學と云ふ新科學が生れたやうに、また二十年前優生學と云ふ新學問が出て來たやうに今後、生存學と云ふやうなものが生れる筈と信ずる。その時、初めて、國民生活は根本的徹底的に解釋せられることとなるであらう。

國民生活の基準 國民生活の基準は原則の形を以て表示せられるから、それは概念化の過程を通過したものでなければならぬ。例へば、衣食住の生活標準にしたところが、乃至、家事の法案(女中でも、主婦でも、臺所でも)にしたところが、單に有り合せの材料を併列するに止まらず、更らに、之れを概念化しなければならぬのであるから、凡て生活の基準は實際家の提出する材料と學者の概念化を以て初めて、完成さるべきものである。そこで、我國民の標準生活なるものも、生活の概念的規定により、初めて、確立することが能きる

のであり、單に、有り合せの材料を蒐集し、これを分類併列すべきではない。

文化生活 我々の標準生活は無論生理生活即ち單なる生存に對當せずして、能率的、文化的生活を意味すべきものなるは明かである。單に、生理的に生存をつゞけても、それは畢竟動物生活であつて、人間としての生活ではないことゝならう。動物は儀禮に一顧を拂ふ必要もなく、書籍を購ひ、子供を學校に送る必要もないので、これ等の生活資料は動物の生活より除外さるゝわけであるが、人間は即ち人間としての生活、即ち文化的、能率的基準に據る生活をするを要することは自明である。そこで、現時に於ける文化生活とは如何なるものかと云ふことが、生活の概念化を通じて規定せられるやうに、現代人には未だ以て學として成立する生存科學がないのであるから、先以て、在り合せの原則により、一と先づ規定してをくの外はないことゝなる。

國民生活と婦人の服裝 情々、今日の國民生活を見ると、衣服の部門が殊に

亂雑になつて居るやうである。アメリカで研究した結果に據ると、百五十圓より二百圓位の生活に於ては、衣服費は、十五プロセントになつて居る。それで二百圓の月収の人々は二拾圓内外(家族單位で三人三分)の衣服費を支出すべきである。然るに、日本では、私の實例により指示するやうに、五十プロセントの衣服費を支出してゐる程のものがある。これが例外であると結構であるが、國民の少なからざる部分が斯様な無鐵砲な衣服費を支出してゐるのではなからうかと想ふのである。そうすると、衣服で亡國をして居るのであつて、衣服に贅をつくす爲めに、子供を學校へやることも出來ず、健康を維持する様な滋養食を攝ることも出來ず、一切の文化生活をすることが出來ぬことゝなつてくるこれは兒童教育上深憂に堪えぬことである。

今日、我國民の生活標準を脅かすこと大なるものは衣服であらうと思ふ。殊に、日本人のうちで、例へば、京都人士の如きは、一般に、衣服の濫費が如何

に市民の健康を脅かし、風俗を紊し、教養を疎かにし、健全なる市民及國民造成に障害を及ぼすかを一考しなければならぬ。私は關西地方の小學校及高等女學校に於ける女教員諸子の着用する衣服の一般に華美贅澤なのに一驚を喫して居る一人である。男教師の服装も亦これに準じて華美贅澤なるに至つては一驚を喫すべきことである。この時に、京都府下小學校教員大會が、議決を以て、今後簡易快適なる洋服を常服とすることを宣明したのは、私の雙手を舉げて賛同するを禁じ得ないところである。我國婦人の和服は職業用及活動用として不適當なること男子のそれと同様で、耐久性に乏しく、取扱ひ及使用に手数を要し、時間と費用との浪費夥しきものがある。よりて、活動の範圍では、之れを簡易快適なる洋服に改むると云ふことは、最も適切なことでなくてはならぬ。少くも、衣服の用途としての保温、保護、儀禮及び裝飾の中、その實用に合ふ邊に於て、婦人の服装に改良を施すと云ふことは避け得られないところであら

う。婦人の服装が單り裝飾に適し、且つ、これによりて劣情を挑發する如きは排すべきことでなくてはならない。

それで、一と先づ、活動及實用に集中すべき女學生及職業婦人の服装を洋服として、日常衣服標準の中へ加へて宜いと思ふ。殊に兒童の服装は洋化しなればならぬと思ふ。

婦人の服装と道德 京都一帯には淫靡の氣風が充溢し、滿都を擧げて、之れ花柳の巷と云ふ有様である。これは、婦人の風俗を一見したゞけでも解ることであるが、京都婦人の姿態は藝妓と大同小異である。着物の好み、着こなし、容姿など、孰れも、藝妓に範を採つて居る。その心理も亦た次いで、玩弄物のそれで、玩具を以て甘じて居るやうに見える。何等の威嚴も主張もないやうな御手輕なもので、男の好み次第注文次第で、どうにもならうと云ふ『をもちや』そのものではないか。これは、女を斯様に仕立上げると云ふこの地の習慣と女

を以て男の愛翫物に終始せしむれば足ると云ふ心理の表現である。即ち、京都の女には、人格の自覺と云ふものが發達せず、物としての『をもちや』たる女であつて、人としての人間性に目覺めた女ではないのである。

私は京都の女を以て多少程度をづらして日本の女を代表させるが、男の玩弄に甘するが如き低級な女を少くすることによりて、主張と威嚴とをもち、男をして狎れしめず、近寄らしめないやうな、氣品をもつた婦人を造ることが、日本婦人の位置を高めることになるであらうと思ふ。

風俗壞亂もこゝまで來ればモウ澤山と云ひたい。こそく、隠れて裏道を通ふ代りに、手に手をとつて大通りを之れ見よがしに歩きまわり、酒氣紛々、大路に巫山戲散らし、自動車に見世物として練り歩くものは、即ち、酔ひどれの美妓と共に都合十數哩を疾驅する畫ではないか。料亭や酒樓は各處に撒き散らされ、往來に絃歌と嬌聲と騷擾とがごよめき渡る醜狀陋態は、ほとく、我等

の子女教育を如何にせん之感を起さざるを得ぬ。

京都には下水に蓋のないところが多いが、これは京都市の改良事業の一頁に必ず加へらるべきものであらうと思ふ。淫賣及醜業と云ふ鼻抓みの下水が全市を横流し、臭氣紛々たることに於て、市民が迷惑を感ずると云ふことであつたら、何故、我等は之れに蓋をすることを主張してはならないか。下水に蓋をする事業が立派な事業であつたら、醜業に蓋をする事業は、又必ず文化都市計畫の中に加へらるべきものであらう。

私たちは、子供を連れて散歩する折りに、三々五々濶歩する美姫の何ものであるかを訊ねられて、赤面するを禁じ得ないことが屢々ある。妻でもなければ妹でもない婦人となれなれしく歩く鐵面皮はさるもの乍ら、かうして、我等の子女が羞恥の觀念を失ひ、性的道念をにぶらすに至つては、かくても、我等は尙黙しなければならぬ極刑に處せらるべきや。

日本の女が玩弄物になり、人格の光りを失ふ所以のものは見まね聞きまね、醜業婦がお手本になつて居るからである。着物の着こなし、化粧の仕方、言葉使いなど、藝妓そつくりとなつたのは都踊りの姐サンがお手本であるからである。女性の開發、人格の自覺よりも、着かざることに興味を有つと云ふ風習は奇麗な玩弄物を目標とすることから來る。これが、女教員の間にまでも傳播し女教員社會の華美贅澤なるは恐らく世界にその比を見ざるところで、電車の中でも、飲食店でも私たちは、女教員が懷中鏡で白粉と云ふ式を愕きながら眺めさせられてをる。

私たちは、斯様な非違を敢て彈劾するに躊躇するものでない。人を造らず、人間扱ひしないで、器物扱ひすべき姐サンを造ると云ふことでは、日本婦人の面目何處にありやと言はざるを得ぬ。私たちの國には、藝術も、道德も、宗教も、哲學も、それから開化すべき文化も要るが、都市を罪惡と淫靡とを以て埋

める醜業が、之れ全體たると云ふに至つて、そもく我々の面目は立つものであるか。

エツシエンパツハは、『羞恥感は善良なる習慣を養ふ堅固なる堡壘』と云ふた。私たちは、青年男女に羞恥感を取り去ることなしに、性慾教育を如何にして行ふべきかに苦心して居る。動物の生殖作用及び人類の性的意義の傳授は、青年男女の羞恥感を鈍麻させる虞れがある。若し、青年男女にして、羞恥感を失へば、男女の純潔の鐵條網は切つて落されたのである。その時以來、惡魔の侵入は勝手次第と云ふことになる。兒童が餘りに早く性慾上のことを露骨に知るは兒童を早熟に導き、性的廢頽に進む序幕となる。併し、我等は市街に於て、我等の子女をして露骨な性的演技を見せるを余儀なくさせらるゝと云ふに於ては如何にして、我等は子女の羞恥を保存し純潔を維持することが能きやうか。羞恥感は青年男女の性的清淨の堡壘である。併し、この堡壘は、我國に於て維持

すべからざる慘狀にあるを記せよ。

以上の分解を通じて、日本の婦人が何故全體の上では物であり、玩弄物であつて、婦人性をもつた人間でないと思ふ。日本婦人にも無論立派な人としての婦人もあるが、全體としての日本婦人は未だ物そのものである。そして、奇麗に着飾つて、男子の『オモチャ』になると云ふ風習が繁昌するやうに見へる。これは甚だ嘆すべきことであつて、婦人の墮落引いては日本の文化そのものゝ下落を來す所以である。奇麗な着物を着ると云ふことは、性的興奮を一定度に高むると云ふのであつたら、兩性の戀愛の上から其れは差支へないことであらう。エリス氏の言ふやうに、兩性の愛情は着物の差異からも來るので、若し、男女が同じ着物を着ることになれば、性の牽引は大いに殺がれることゝなるであらう。男と女とは互に異ふことをなし、各異ふやうにしやうと努むるもので、これは性愛の上に於て決して差支へないことであ

る。併し、異性の玩弄物になる爲めに着飾ると云ふのであつたら、それこそ、女は男の『オモチャ』そのものになることである。我國婦人の裝飾に憂身をやつし、都踊の姐サンを真似ると云ふことであつたら、何處に品位あり威嚴ある人としての自覺ある婦人ありやと云はざるを得ない。

日本婦人より裝飾の關心をある程度に減縮することは、人としての婦人の自覺を得さする一助となることであるに違ひない。飾ると云ふことが『オモチャ』たる資格を得るためであつたら、裝飾の風習の轉換により、必ず興味の移動を來すであらうと信ずる。婦人が立派な品格をもち、高等な素養や學藝をもつことに興味をもつと云ふことであつたら、そこに、裝飾の削減が自から促進せらるゝに違ひない。

そこで、私は子供の服裝の洋化を以て面白い現象であると考へて居る。子供服裝の洋化は、それが子供の活動や、現代生活様式に合するのために、自然に促進

されたものであると思ふ。單に、經濟的だと云ふやうな單純なことではないのである。無論、生活上の窮迫が、洋服流行ともなつたであらうが、それは、主として、現代の生活様式の轉化より來る現象である。私は、現在の生活様式に密接の關係ある婦人の範圍では、漸次、婦人の服裝が洋化することゝ考へて居る。この場合、例の屁理窟位つまらぬものはない。生活様式の轉化はそんな愚論を抜きにして、さつさと進行して了ふ。そこで、少くも數年間のうちに、必ず女學生の校服の洋化は確實に現實せられ、職業婦人もサツサとそれに追従するであらうと思ふ。主婦や隠居様までが洋服を着ると云ふやうな頓狂なことはないが、男子と同様、生活様式の轉化より、婦人も亦外出用としては大部分洋服を採用するであらうと思ふ。かうなれば、風俗問題は漸次解決の緒に就いたのである。

私は日本に於ては、着物の精神病が流行すると思ふが、これは、家庭及び家

族生活を經濟の上から顛覆するばかりでなく、婦人の最も大切なる性を奪ひ、婦人をして男の玩弄物となし、女奴隷を造る所以であると信ずる。自から身分不相應なる支出をなし、家を破り、女の寶を失ひ、男の『オモチャ』になると云ふことは極度の馬鹿でなければならぬ。然るに、日本では、これが尋常茶番のこととしてあり、萬人之れを實行すると云ふ有様である。

國民生活の標準 我國現時(大正十四年)の生活標準はこれを左の如く定めると云ふことは一案として宜いと思ふ。

食	費	生存の標準	六〇%
		生活の標準	三五%
衣服	費	生存の標準	六%
		生活の標準	一〇%
住居	費	生存の標準	一二%

		(生活の標準)	一七%
其	他	生存の標準	一七%
		生活の標準	三八%
合	計	生存の標準	一〇〇%
		生活の標準	一〇〇%

そこで、現時に於て、五人(三人三分)の生存費は、一年六百二十六圓であり文化生活費は三千百十六圓として宜いのである。これを生活種目に従つて配當すると略左の如くなるのであらう。

一、生存の標準に據る費用

- A、食 費 參百八拾壹圓
- B、衣服 費 四 拾 圓
- C、住居 費 八 拾 貳 圓

D、其他

百貳拾貳圓

合計

六百貳拾六圓

二、生活の標準に據る費用

A、食費

九百七拾貳圓

B、衣服費

參百參拾圓

C、住居費

五百七拾七圓

D、其他

千貳百參拾六圓

合計

參千百拾六圓

以上の生存及生活標準は一と先づ、その程度のもとと云ふことにして、表示してをいて宜いであらう。略これに依りて、我等の生活標準を知ることが出來やうと思ふ。然るに、我國民中、生活標準に據り生きて行き得るものが僅かに〇・七プロセントに過ぎないのであるから、千人中七人が能率生活をなすを得

るだけである。それで、千人中九百九十三人は唯生存の標準によるもので、その中の多くは僅かに生理生活をなし得るものたるに過ぎない。然るに、我が國民生活の現状は寧ろ愕くべきもので、その亂雜放恣到底想像の外である。

日本人の生活 今日、參千圓の年收のある或る家族の主婦の使用する衣服費は千五百八拾九圓であるが、これは嚮きに掲げた標準衣服費（而かも三人三分の）參百參拾圓に對比して愕くべき額であり、寧ろ、無鐵砲であるが、我國現時の婦人服費と云ふものは、斯様な無茶なものでないかと想像する理由がある。森本博士の擧示してある主婦の使用した衣服は絹羽織十一枚、木綿羽織六枚、木綿綿入五枚、絹袷七枚、木綿袷五枚、絹單衣九枚、ネル單衣三枚、帶九筋、絹襦袢五枚、メリンス襦袢六枚、木綿襦袢三枚、コート二枚、シヨール二、手袋三、傘二、足袋六足、ハンカチーフ八枚、帶止め四、帶上げ四、腰ヒモ四と云ふのである。その複雑にして多岐なる到底簡易快適なるべき現代人生活と

一致するものではない。斯くの如き無鐵砲なる生活をなすと云ふことであつたら、今日の物價の暴騰はそれに歸因するものであり、又その家庭生活の異狀畸形なるは、大半それに因ると稱するも、穴勝不當ではあるまいと思ふ。

米國人の生活 米國では、チャビン氏の研究に據ると、年收八百圓より壹千圓までの家族は、一家五人の計算で、衣服費百貳拾六圓であり、全額の十三プロセントに當るのであるが、父はその中の二七プロセント、母は一六プロセント、男兒は一八プロセント、女兒は一五プロセントを分有する。又年收千五百圓臺のものは貳百圓の衣服費であるが、それは收入の一三・四プロセントに當る。年收貳千圓より貳千五百圓のものは十五・五プロセントの衣服費を要し、その中、父は二八・三プロセント、母は二〇・八プロセント、男兒は一五・七プロセント、女兒は一六・〇プロセントを分有する。

米國勞働調査年報第十八卷に據ると、米國人の生活費や衣服費の割合は左の

如くである。

年 收	百分率
四〇〇圓	八・六八
四〇〇圓— 六〇〇圓	八・六六
六〇〇圓— 八〇〇圓	一〇・〇二
八〇〇圓— 一、〇〇〇圓	一一・三八
一、〇〇〇圓— 一、二〇〇圓	一一・九八
一、二〇〇圓— 一、四〇〇圓	一二・八八
一、四〇〇圓— 一、六〇〇圓	一三・五〇
一、六〇〇圓— 一、八〇〇圓	一三・五七
一、八〇〇圓— 二、〇〇〇圓	一四・三五
二、〇〇〇圓— 二、二〇〇圓	一五・〇六

これで見ると、年收貳千圓より貳千五百圓乃至參千圓のものは十五プロセントの衣服費を以てするを適當とし、我々の標準によるときは更らに切り下げて一〇プロセントを費やすべきものとするのである。それで、さきに擧示せし實例の示すが如き五十プロセントを衣服費に投ずる如きは、眞に亡國の沙汰で、實に寒心すべきことではなくてはならない。然るに、我國の衣服費の現状が略之れに類するのであるとすれば、我等は今に於て反省一番するを要する。然らざれば、我々が文化人としての簡易快適にして高等なる生活をなし遂ぐる事が能きず、教育も、享樂も、趣味も、すべて一擲し去らなければならぬことゝならう。衣服の用途は無論裝飾に偏傾すべき筈のものではない。體温を保持し物理的化學的の障害を防禦し、儀禮の用に供し、且つ各自の慰安ともなるべき筈のものであるから、單に裝飾のために全力を注ぐと云ふ虚榮及性慾挑發のため衣服を濫使用するが如きことは尤も慎まなければならぬ。殊に京都に於け

るが如き衣服一天張りの生活は、國民生活を顛覆し、健全なる市民生活の基礎を動搖せしむるものである。文化人の生活は決して衣服に偏傾しうるが如き單純なるものでも、素朴なるものでもない。文化人の生活はそれより遙かに高等なる趣味に向つて開展せらるべきものである。實に、教育あり、品性ある男女の服装は比較的單純快適であるが、これはヨリ以上の複雑なる趣味に向つて費用を分散する必要ある結果なのである。

男女の衣服費 それから、米國の例に見るが如く、男子の衣服費は婦人よりも多額なるが常則である。一般に想像さるところでは、婦人の服装の方が遙かに多額を要すとせらるゝのであるが、之は無闇に衣服に憂身をやつ婦人の場合で、普通は、男子の方に衣服費が多く要るのである。蓋し、男子の職分は出で、働くのであるから、衣服の破損大にして、且つ仕事服の外凡ゆる集會用の服装を要する。であるから、實際としては、男子の衣服費は家計上顯著なる部

分である。男子にして、情慾に集中するため、衣服を濫使することは絶對的に排斥すべきであり、且つ自由購買の境遇を利用することも慎まなければならぬが、男子の衣服費が比較的多額に上ると云ふことは職分の上より避け得られないことである。然るに、日本では、妻君は滿艦飾をして孔雀夫人振りを發揮し乍ら、赤羊羹のセビロ服と云ふ形容貧弱なる夫君を随伴すると云ふのが常則であるが、これは如何にも感服し兼ねる風習である。職務大事と心得れば、品格も名譽も毀損させるやうな服裝を夫にさせておいてよい譯のものではない。

生活標準の樹立 今や、節約より生活の立て直ほしに轉じ、國民生活の顛覆を防がむとする秋である。我々は單に安價生活をせよといふのではないが、現代の濫費を絶對的に排除し、且つ、合理的能率生活をなすことを強説する。茲に於て、標準生活の概念を得ることが必要である。何が標準生活であるかとい

ふことは、困難な問題には相違ないが、我々は少くも標準生活の一定様式を有たなければならぬ。私の上述したものが、果して標準生活に當るかごうかは暫らく疑問としても、私は標準生活樹立の急務なる所以を、以上によりて略主張し得たと思ふ。

兒童と衣服 前段申述べたやうに、衣服は現代の生活に於ては、用役のために使用せられずして、優勝のために濫用せられて居るので、中等階級及び下層民の衣服の標準は、一つにそれ以上の富者のものであつた。それ故、富者としては何等不都合なき衣服使用が、それ以下のものによりては、實に、贅澤として、華美として、將又浪費として表現せらるゝことゝなつた。かくて、衣服に因る生活の顛覆が來り、現代人の生活は危機に瀕した。富者が珍奇なる襟巻をすれば、富者ならざるもの迄それにならひ、前者が流行の粹を追へば、後者も亦従つて動く云ふ有様で、これが爲めに、子供の教育も出來ず、娛樂も趣味

も一擲すると云ふことに進まざるを得ない。それで、現代人の生活は著るしく不健全なるものとなり、遂に顛覆の危機に逼つたと云ふのが昨今の状態である。

現代人の和服は既に行詰りを生じて來たやうである。尤も、和服改良は十數年の懸案であつたが、右に改良し、左に工夫し、或は南洋式、或は北蠻式でも云ふやうな變挺なものを造り上げ、一つも採用する程のものを生せず、竟に現時我々は和服改良に愛想をつかしたやうに見える。これが所謂和服の行詰りどでも言ふべきものであらう。何人と雖も、今日全體として和服を捨つべしなご云ふ頓狂なものはないであらうが、改良服の考案は一と先づ行き詰りと云ふことを表示して居るらしい。そこで、洋服と早變りをして茲に洋服流行と云ふことになつた。これが、諸所の女學校の洋服展覽會の擧となり、模範洋服となり、小學校女教員會附屬の洋服促進會となつた次第であらうと思ふ。

現今の婦人洋服は、先づ小兒のものより端を發し、よりて以て、子供洋服全盛となり、コドモ洋服屋萬歳となり、かくて、子供界を征服したが、それは漸次に進展して、女學生及び職業婦人をも洋服に引き入れつゝある。この趨勢が良いか悪いかは別問題として、洋服全盛と云ふだけは事實であつて、この點は頑迷者流顔色なしであらう。男子が活動用及び職業用として洋服を着るに、同じく活動界に入り、職業界に侵入した今日の婦人に、洋服が悪ると云ふ道理があるであらうか。男子は洋服に限るべし、婦人は電車の危険を冒しても、往來の不便を忍むでも、洋服不可なるべしと云ふ論法があらうか。併し、それだからと云ふて、凡ての範圍に於て、洋服たるべしと云ふことは、今のところ、できさうにもない。

次に、現代生活改造の衣服に體現する意義に於て、それは廢物を利用し、生活に補足すべしと云ふことが示されて居る。即ち、廢物利用は單に老廢物を片

付くべしと云ふやうなケチなことではない。それは現代の生活が窮迫の極に達して顛覆の危機に瀕するに際し、合理的能率生活を打ち立てむとする現代人努力の斷片なのである。子供を學校に送り、趣味生活をなし、文化の斷崖に攀ち登らんとするに當り、何れにしても計算相立たず、よりて以て、節約をなさむとするに外ならない。その他、之れにより、合理的經濟的に物質の按排を成し遂げむとする人類の消極的及積極的努力の兩面を表示する。

それから、衣服の生活立て直しに貢献するものは、其單純化と云ふことである。これが、現代人衣服の原則の一つであるらしく思はれる。洋服の流行も亦それを表徴するものに外ならないだらう。洋服と和服と、孰れが簡易快適なるやの根本論は、今のところ國民の多くが考へて居ないところであらう。併し、一寸見たところ、洋服の方が簡易であり、便利であるとは考へて居るであらうそこで、衣服の單純化の實現を洋服に求むる趨勢になつたのである。見渡すと

ころ、洋服を以て、シムブルにして、且つコムフオタブルのものとして翳げ出し、之れを主張して居るものが多いやうである。これが其の主張者の意識的たると無意識的たるとを問はず、事實さうなつて居ると云ふことは拒みやうもない。これは、單純化の出口を洋服に求めた爲めであらう。

兎に角、我々はシムブル・ライフ、即ち簡易生活のプログラムを作るに腐心しつゝある。生活の危機を救ふ方法の一として、さう考へるのだが、又我々の合理的能率生活が、單純化の要素を含むと云ふことも明かであらう。

今日工夫せられる衣服は、多く合理的方案と云ふことを相手に進むで居るらしい。事實、我々は衣服の合理的方案をどうすれば宜いかと云ふことに對し、暗中摸索の有様である。これは、一見したよりも、複雑な根本的な構想を背景にするものだが、衣服も亦生活に對し、積極的に貢献するには、この種の用意を缺いてはならないだらう。否、それなしには、衣服の合理化は失敗するだら

う。私は兒童の服裝が洋服化することを國民生活上面白い現象だと思つてゐる。

食物と住宅の改善 衣服の改善結構であるが、今一層、食物に注意を拂ひ度いと思ふ。食物を合理的學術的にし、費用を減すると共に、滋養價値をも増さなければならぬ。滋養物を攝つて、而かも、尙ほ、安價であること云ふやうな虫のよいことが出来るかと言へば、それは、出来ないわけでない。學問の指示するところに従へば、それは遺憾なく出来るのである。今日まで、國民は食物の研究を怠つて居たのであるが、今後、生活の本源たる食物に就て充分思ひを致さなければならぬ。

住宅難の今日、住宅の建築に就て、臺所を改良するとか、客室より居間を重するとか云ふ思想が出てきたのは、住居の合理的改善が行はれて來た證據であると思ふ。今日の住宅は活動もし慰安ともなる或るものが要るので、和洋折衷

式が宜いかと考へるのである。

衣食住は各別々に考へて行くべきものではないので、これを一つの系統に纏め、それ／＼の生活的原則に従つて、衣は斯様にしやう、食物はこう、住宅はこうと云ふことにしなければならぬ。そこで、生活改善より一歩進むで生活の原理の建設を必要とする。

衣食住の順位 これまで、我々は衣食住の順位で呼んで來た。此は以前の生活が安易で、且つ、一生懸命の活動をしないで宜い時代の遺物であつた。今日の如く生活の困難を感じ、生活上の白熱戦をやつて居る時代には、良い食物を攝らなければ動きがとれぬことゝなり、食物本位にしなければならぬことが解つて來た。それで、我々は今後食衣住若くは食住衣の順位で呼ぶべきである。

我國では、家庭料理より饗宴料理を主とし、客來と云へば、思ひ切つた御馳

走をして見榮を張り乍ら、平常は所謂澤庵亡國をやつて辛棒をして居る。衣服に於ては、保温又健康の用途に向つて考へなければならぬのに、平常着はポロポロですまし、外出は御姫様か殿様を氣取るといふ風である。住に於ても、このことは同じで、居間は雪隠の隣りとし、薄暗くて電燈もないのに、客室ばかりは明煌々、天下の廣居を以て任じて居る。我國の生活は全體として見榮を原則として居る。

簡易生活と安價生活 額田博士は『安價生活』と云ふ本を著はして居るが、安價生活など、稱する幼稚な考へは最早死滅してもらひ度いものだ。安價生活とかシムブル・ライフ即ち簡易生活とか云ふ事は必要的欲望、身分的欲望、快樂的欲望及奢侈的欲望の中必然的欲望のみを充たし動物生活と云ふのをやるか乃至隱遁者流に禁慾主義を實行するのであるが、生活上の白熱戦をやる時代ではそれでは、敗走してしまはねばならぬ。それで安價生活も簡易生活も宜敷くな

い。その代りとして、單純生活が出場する。單純生活は必然的慾望に或る程度の身分的慾望を加へた生活である。

能率生活とは經濟生活のことである。即ち必然的、身分的快樂的慾望を充たしうる生活である。これを能率生活と云ふ。その上に經濟的意義に精神的意義を加へた生活を文化生活と云ふ。我々の生活は能率生活及び文化生活を目標にすべきである。

余分な生活は窮乏と同じく人生に有害である。人生には有り余る程の財のあることは自分の家内も子供も熟しすぎて腐りが來るので、決して幸福でないと思得ねばならぬ。貧乏は無論人生の災厄である。マーシャル教授は『上流社會の消費の過半は全く不必要なものである』と云ふてゐる。

兒童保育と國民生活の改善要目

a、食物は我國のやうに極端な簡易生活をなし、澤庵亡國ではいけないから

もう一層食物に費用を投ずるが宜い。御馳走をせよと云ふのと滋養食をせよと云ふのとを混同しなければ宜い。

b、衣服費を削減して、單純生活の様式に則るが宜い。

c、社交費に奮發をすること我國の如きは稀れで、之れでは生活を顛覆するから、これは思ひ切つて削減するが宜い。

d、我國では粗食をして體燥や運動で健康を増進せんとする愕くべき非理を敢てして居る。食はむで體操をし運動しても効果がなく、従つて、健康増進にならぬのは分り切つたことだ。それで、食ひ且つ運動する様にし度い。食べないで働く主義は所謂亡國そのものである。

滋養學の泰斗たるマカラム博士は食物と人生との關係に就て斯く論じてゐる。

『不完全な食物を用ゐる國民は生命比較的短く、乳兒の死亡率大で、祖先の

用ゐたる簡單な機械に満足して凡て進取の氣象に乏しい。之れに反し、牛乳及び、肉食を十分に攝るときは、兒童の成長速かにして、生命長く、一般に子供の教育は良好である。また、彼等は、文學、科學及び美術に於て進歩著るしく、政治的に各人の権利の觀念がよく發達してゐる。従つて、一國の文化も生理的基礎を有し、國民の營養問題に密接な關係を有してゐる』

森本博士に據ると、日本人の蘿蔔の消費高一ヶ年七億二千二百萬貫である。これを大人一人當りにすると十五貫百〇三匁。これの大部分は澤庵として用ゐられる。それで、一家族平均一ヶ年二百二十八匁、一家一日〇・八本即ち一本近くを消費する。澤庵はある酸酵細菌の生成する糖分及び乳酸の作用により食慾を煽り、唾液や胃液の分泌を促がし有利であるが、營養としては少量のヂャスターゼを含有し、幾分炭水化物の消化を助けるに過ぎぬ。その外、何等の營養なし。然るに、消化は甚だ悪い。之れ、森本博士の澤庵亡國論ある所以であ

る。

一日の營養量としては、十三貫八百三十匁の體重の日本人には、一日一人蛋白質二十五匁六分、脂肪五匁三分、炭水化物百二十三匁二分、若干のビタミンである。これを保健食量若くは安全食量と呼ぶ。

内務省衛生局の調査に據ると、一人一日の保健食量左の如し、

第一類 牛乳一合、味噌五匁、葱二十匁、馬鈴薯二十匁、瓜類十五匁、牛肉六十匁、白米四合

第二類 鶏卵二個、味噌五匁、莢菜八十匁、魚六十五匁、白米四合

第三類 豆腐二十五匁、莢菜豆十五匁、ゆば又燒麩三匁、魚二十五匁、胡麻油一匁、鶏肉三十匁、味噌十匁、白米四合

我國民の冗費 我國民は大名生活をする事、高慢で威張る事、見榮を張る事を生活の中に組み入れて居るから、女中は無法に多く、全國總て無慮七十萬人

官廳公衙銀行會社では無數の給仕小使があり、商店では多數の小僧がある。女中國、給仕國、小僧國と云ふやうな贅冗は自分が働かさへすれば大半減少し得るであらう。自分の仕事は自分でするやうな習慣を我國では子供の時より養成しなくてはならない。手を鳴らして、女中を呼ぶ式の生活はあくまで非文明的である。

生活改善展覽會 私は兒童の保育問題は國民生活の基調をもつと考へるから國民生活の一般原則を述べたのだが、現今の我國民生活を例示するものとして京都府で大正十三年三月開催した生活改善展覽會の概況を附述しやう。

京都府生活改善展覽會に出陳せしものは、全國各地の出品、京都府社會課特製の出品物の外、文部省所有のもの二千有餘點、それに、市社會課、市内各女學校、大丸、高島屋及び明治屋等の出品を以てし、よりて会場たる商業會議所三階及び會議所を充溢した。その内容左の如し。

生活改善展出品目錄

東宮職御貸下品

文部省

東宮殿下學習院初等科御在學中御使用の御學用品

- 一、御 卓 一 點
- 一、小學用日本歷史圖(尋常六年) 一 點
- 一、國 語 帳 一 點
- 一、小 刀 一 點
- 一、鉛 筆 差 一 點
- 一、尋常小學校讀本卷十一 一 點
- 一、尋常小學校理科書(第六學年兒童用) 一 點
- 一、毛 筆 二 點
- 一、鉛 筆 二 點

一般出品物

衣服裝身具等の部

品 名

出 品 者

- 一、紙糸及紙糸織物各種洗濯石鹼紙糸混綿織物見本殺虫防虫劑 廣島陸軍被服支廠
- 一、和服一揃で十着の改良服 神戸女子高等技藝學校
- 一、家庭染料 川 口 商 店
- 一、八九才の女兒和服通學服の比較 洋服裁縫研究會
- 一、學校式服の利用其の他 大阪府立市岡高等女學校
- 一、和洋服の洗濯法 大阪フレンチクローザー
- 一、廢物利用の子供服及附屬品 京都市社會課洋裁相談所
- 一、毛糸編物類 同 編物講習所

一、輕 裝 帶

小野政次郎

一、廣巾華涼織

武田彌一郎

一、被服費の節約と廣巾の利用

大阪府商務課

一、平安女學校制服

平安女學校

一、子供改良服其他

同志社女學校

一、子 供 服

コドモヤ洋裝店

一、衣類の節約改造利用

京都府立第一高等女學校

一、被 服 害 虫

廣島陸軍被服支廠

一、經濟上より見たる女學生和洋服の比較

廣島市山中高等女學校

一、五六歳の女兒の和洋服の比較及家庭應用し得る汚點拔法

高等家政女學校

一、兒童和服の裁方及其參考品

福岡市浮羽高等女學校

一、子供洋服及び帽子

ツル矢本店

一、女 學 生 服

菊花高等女學校

一、衣服の裁方

大阪府立夕陽丘高等女學校

一、洋服廢物の改造及子供服並に其裁方

東條屋洋服店

一、婦人服及び袴

福谷本店

一、綴織其他の節約品

乙訓郡役所

一、婦人用下穿

府立宮津高等女學校

一、改良襤褸カバー及霧染標本

同

一、廢物利用の女兒服及圖表

淑女高等女學校

一、本 校 の 制 服

京都市立第一高等女學校

一、本校の兒童制服

銅駝小學校

一、嬰兒改良蒲團

京都市立第二高等女學校

- 一、古着の利用法
- 一、子供服及附屬品
- 一、子供運動服
- 一、毛糸製手袋の修理
- 一、子供衣服其他
- 一、婦人洋服
- 一、學生服及び和服
- 一、廢物利用の子供服
- 一、佛國織物の見本

食物に關する部

- 東京女子高等師範學校
- 小林洋服店
- 加佐郡役所
- 廣島陸軍被服支廠
- 京都府立第二高等女學校
- 婦人洋服促進會
- 成安高等女學院
- 京都手藝女學校
- 實習商業學校
- 京都市社會課
- 京都市立第二高等女學校

- 一、食物實物とカロリー關係及簡易冷蔵法
- 一、白米品質と其他比較
- 一、引菓子代用品
- 一、米の搗減及米の新古鑑別法
- 一、米の選び方
- 一、茶の鑑識法
- 一、米の販賣法と買方
- 一、消費經濟に關するポスター「喰倒れの日本」其他
- 一、米はどのようにして食ふか衛生的か經濟的か愛國的か

- 府立第二高等女學校
- 都購賣組合
- 北村久五郎
- 文部省
- 京都穀物検査所
- 旭購賣組合
- 京都府社會課
- 文部省
- 府立第一高等女學校
- 市社會課
- 文部省

- 一、各個炊事より共同炊事
- 一、各年齢に對する食物所要量
- 一、小兒期に於ける保健食量
- 一、食用 蜂 密
- 一、貯藏法を異にしたる白米
- 一、食用 兔 と 米
- 一、無砂米と混砂米との比較
- 一、食 料 品

住宅家具等の部

- 一、暖房、炊事、湯沸器具類
- 一、洋食器具類一切
- 一、徳用日の丸煉炭

- 同 府 社 會 課
- 京都府立女子師範學校
- 山城 養 蜂 場
- 京都府立農林學校
- 京都府立農事試驗所
- 鳴 海 宇 之 助
- 珍 品 堂
- 京都瓦斯株式會社
- 明 治 屋
- 田 中 尙 義

- 一、經濟的ストーン炭
- 一、庖丁の使用方法
- 一、鍋釜の傳熱比較
- 一、文化コンロ
- 一、無音自働石油瓦斯發生器
- 一、改良瓦斯調理台及附屬品
- 一、大 徳 竈
- 一、家庭經濟恒六竈
- 一、改良洗濯器具及洗濯石鹼
- 一、蒸汽發生醫療器具
- 一、寢 臺
- 一、安價な臺所器具

- 榊 井 商 店
- 廣島縣山中高等女學校
- 京都府立第二高等女學校
- 西岡工業研究所
- 淺 野 工 業 所
- 京都瓦斯株式會社
- 大 徳 商 會
- 恒 六 商 會
- 白洋舎クリニック株式會社
- 堂 阪 醫 療 器 械 店
- 同
- 平 安 高 等 女 學 校

- 一、重寶な洋食器
- 一、錆ない庖丁
- 一、室内簡易裝飾品
- 一、改良されたる家具類
- 一、一般家庭電熱器具
- 一、簡易住宅模型及圖面
- 一、改良寄宿舎一部透視圖
- 一、文化住宅模型
- 一、日本現代住宅様式發達經路圖表
- 一、日本住宅建築變遷一覽表及住宅寫眞其他
- 一、空氣安全ポンプ(呑口用)
- 一、改良されたる家具類

秋山商店
關根商店
京都美術學校
大丸吳服店
京都電燈株式會社
大阪市聯合婦人會
成安女子學院
京都帝國大學工學部建築學科
同
同
平洋商會
高島屋吳服店

- 一、家庭用裁縫机
- 一、改良せらるべき在來京都市住宅圖
- 一、家庭藥局

桃山高等女學校
京都淑女高等女學校
市立第二高等女學校

社交儀禮其の他家政等に關する部

- 一、六大都市公設市場相場比較
- 一、少額收入者の收支
- 一、無駄に消える量
- 一、宴會は成るべく家庭で
- 一、米の計り方に依る容量の差
- 一、物價問題より見たる貿易上の現象
- 一、乾物鶏卵の鑑別法
- 一、各年齢に對する食物の所要量

文部省
同
同
同
同
大阪府産業課商務課
京都市社會課
府社會課

- 一、生活改善に關する標語
京都市立第一高等女學校
- 一、家政問題の一例
大阪市民博物館
- 一、瓦斯及び電氣上水濫費せざる事
大阪むだせぬ會
- 一、全國一ヶ年結婚件數
同
- 一、葬儀に關する諸件數
同
- 一、香奠返の辭退
同
- 一、時間を勵行する件
同
- 一、家計簿の必要
大阪市民博物館
- 一、度量衡に對する標語並に現品
度量衡組合
- 一、標準豫算費目分類法
大阪市民博物館
- 一、女中を雇はぬ家庭
大阪むだせぬ會
- 一、主婦
同

- 一、家族の所得と乳兒死亡率
府社會課
- 一、京都府及各府縣庶子私生兒出生率比較
京都府庶務課
- 一、府市町村費膨脹率と物價指數との比較
京都府庶務課
- 一、京都府及各府縣の乳兒一歲未滿死亡率比較表
同
- 一、京都府及全國死亡主要原因別比較
同
- 一、營養上から見た大人と小人の死亡率
同
- 一、自動宛名印刷機
松本商店
- 一、萬年ゴム鼻緒
同
- 一、防水藥品
廣島陸軍被服支廠
- 一、防水布
同
- 一、ヘモゾール
中央化學研究所
- 一、練乳見本
明治屋

- 一、寄宿舎學資金表 山中高等女學校
- 一、各品貿易額累年對照表 農商務省
- 一、毛皮輸入額表 文部省
- 一、日本正貨現在高及び日本兌換券發行高 同
- 一、價値の増進 文部省
- 一、よく賣れる店 同
- 一、能率の擧らぬ店 同
- 一、各階級生活比較 同
- 一、木工玩具及特許品 京都市立工業學校
- 一、貯金宣傳 貯金局
- 一、産業組合に對する宣傳 東京府
- 一、消費節約購賣組合統計 乙訓郡役所

- 一、下駄各種 河津商店
 - 一、文化糊及鉛筆 平津商店
 - 一、電氣器具各種 青柳研究所
 - 一、羽子板其の他 精華高等女學校
 - 一、節約宣傳屏風 大阪商業會議所
 - 一、丸ホシ筆 東京山岸鉛筆製造所
 - 一、アドソール 關根靜一
 - 一、生活改善より見たる主婦の讀物 京都市立第二高等女學校
 - 一、簡略文字の調査 同
 - 一、大正十二年收支對標準生活圖解其他 府社會課
- 右の由りて來る原因を解剖し、將來の據りて以て立つところに資することゝするが、第一として、生活改善展は所謂時機に投じたことであつた。即ち、一

昨年頃より端を發した節約気分は、昨年に至り、一般的な國民節約運動となり、京都にも節約會が結成され、普ねく市民の注視をひいた。が、消極的機能に集中する節約は、やがて、積極的な能率増進及び生活改善に進むべき性質のものであるから、事の順序に従つて、それが生活改善の思想に轉じたのであらう。勿論生活改善のことたる未だ究極的のものでないから、尙進むで、建設的のものであるだらうと思ふが、一と先づ、節約は生活改善にまで仕上げられたのである。國民の趨勢かくの如きものあるに當り、これに應じて、生活改善展を開催したのであるから、恰も時機に投じたるが如き觀があつた。

由來、國民の物價騰貴に因る窮迫は刻々に痛切なるものがあつて、最早、根本的に生活の立て直ほしを施し、家政を整へなければならぬ破目に陥つて居る。それで、生活に對し眞劍味があり、尙ほ、それは血眼であると云ふのを適切とする。今日に於ては、生活の整理は悠長たる事柄ではなく、それは一種死

ぬるか生きるかの眞劍なものとなつて居る。ところで、その手引きなり模範たるべきものを提示すると云ふのであるから、改善展への觀客殺到は寧ろ當然なるものがあると云はなければならなかつた。

右は生活改善展繁昌の自然的條件であるが、これに數個の人爲的條件が參加して生活改善展を成效せしめた。それは、府社會課に於ける努力によるが、宣傳は能るだけの成果を得るやうにしたので、新聞にも既に開會一週間前より記事がチラホラ現はれ、それが開會間際になつて濃度を高め、そこに一種展覽會気分なるものをつくることが出來た。それに、宣傳ビラが重なる新聞に挿入せられて毎戸に配付せられ、開會中に自動車でビラを撒布することも實行した。

右の努力と相俟つて、民間有志の理解と奔走とも與つて力があつた。即ち、市内三十六團體を包擁する京都婦人聯合會の厚意により、市内の有識婦人及び

主婦に對し展覽會の主旨を徹底することができた。

これに加へ、市役所及商業會議所の參加盡瘁せるあり、これは、展覽會成功の原因の一であるが、市役所社會課及勸業課よりも出品の勸誘等諸般畫策に就て盡力するところがあつた。市社會課は特に即賣市場を設け、且つ參考品を出陳した。會期中恰も自動的に繁昌をして來た趣のあるのは、事の赤熱の一般状態と同一である。即ち、熱し初めれば自然に熱度を高めて行くと云ふのが自然の理法である。それがため、初日には二千人、二日目には五千人、三日目には七千人、四日の日曜日には無慮一萬に及ばんとし、それが五日、六日、七日に至るも毫も減退の模様がなく、初日以来、約五萬人の入場者があつた。八日の觀照日には大學教授及顯要なる人々が夫人同伴で仔細に觀覽したと云ふことは京都には類例のないことである。これも、如何に時勢が生活改善の氣運を促進してゐたかと云ふことを物語るものたるに過ぎない。

出陳物は、(一)衣服部、(二)住宅部、(三)食物部、(四)參考部に分ち陳列せられた。この中、主力を傾倒するやの觀があつたのは、衣服部であつて、出品物も豊富であり、改良上の努力も尠らずであつた。

衣服部の傾向としては、(一)洋服の着用を促進すること、(二)廢物の利用、(三)衣服の單純化、(四)衣服の合理化の四つである。洋服着用の趨勢は、近時婦人と雖も活動時代に入り、職業界にも浸入して來たのであるから、簡易便利なる洋服に一顧を與へることゝなつたと云ふのであらう。先づ、洋服は子供に端を發したやうで、近時、子供服の流行盛なるものがある。それより順次、女教師及職業婦人等活動に集中する婦人の範圍に洋服が押し進められて來るらしいのである。かの京都の小學校女教員會の決議により洋服促進會なるものが出來たのも其趨勢の一端に觸れたものであらう。展覽會には目立つて洋服の出陳があり、それが如何にして着用に堪へるかを研究するが如き態度をもつて居

た。而して、改良和服及それの方案の出陳意外に少いのは寧ろ異とすべきである。これ、恐らく十數年來の懸案として、改良に改良をつぎし所謂改良服の如何にしても満足なる様式を造り出すことを得ず、しばらく、匙を投げて憩ひ居ると云ふ意義によるものであらう。これが良いか悪いかは別として、衣服の現代に於ける趨勢は斯く解釋するを當然としやう。

それから、廢物の利用であるが、これは幾多の考案が提出せられて居る。併し、孰れも、利用の觀念簡單にして、今一層學理的に仕上げらるべきものであらう。廢物利用は恐く物價騰貴に端を發し、次で國民の節約を促し、昨年それが國民的節約運動の形ちに固められたのであるから、茲に、これを衣服に及ばし、節約の主旨により廢物利用を攻究すると云ふことに何の不思議もない。展覽會に現はれた廢物利用の中には、市役所出陳の編物洋服の外、廢物利用としての和服がある。なほ、菊花高等女學校より出陳した服裝新案は袴を紺サージ

として、それが六圓、第一上衣及第二上衣を着用することとし、第一上衣を上等物として拾壹圓五拾錢、第二上衣が木綿で貳圓五拾錢とする。これを利用する主旨で、第一衣を防寒用及室内着用とし、所謂これを『よそゆき』とし體操及作業に對しては、これを脱いで第二衣を露はし、短刀直入、着換へをなさずして用辨することにした。このプランによるときは、上衣及下衣を含して一着金貳拾圓に計算せられる。淑女高等女學校よりは廢物利用女兒服及該圖表を出陳してゐた。宮津高等女學校よりは改良襠襟カバー、婦人用下穿を出陳し、以て改良及廢物利用の意味を現はした。府立第一高等女學校よりは各種冬衣、着古しの利用方法を掲げ、以て、廢物利用の指導たらむとする意味を現はして居る。女學校より校服を出陳したのも少くないが、これは單に自校の服裝はこれであると云ふことを表示するのでは無論なく、活動用として本校は斯くの如き様式を採用することになつて居ると云ふのであらうと思ふ。これは平安高等

女學校、龜岡高等女學校なども同一である。その外、模範としての洋服を出陳したものがある。たとへば、同志社女學校の婦人洋服一式を出陳せし如きは即ちそれである。これは衣服の合理的な方式に觸れるものがあるが、婦人にして活動用及職業用に洋装をするとすれば、異様奇形なる様式を以てすることが出來ず、又洋服そのまゝを採用することが能きるかどうかも疑問であるから、こゝ一番、更らに工夫を凝らすことが必要である。兎に角、廢物利用と云ふことが衣服部に明かに表示されたのは、生活改善の前提としての節約に接觸する意義によるものであらう。

この外、衣服部では、單純化と云ふことが現はれて居る。これは、たゞに、衣服に就てのみならず、食物でも、住宅でも同一である。これも一つには節約より來たるものたるに外ならないだらう。洋服着用を促進することも、和服が餘りに複雑で、費費を要すると云ふ構想が含まれてゐる。殊に、毛糸の編物が

推奨せられて居るのは、安くて、温くて、手軽で、便利であるがためであらう併し、たゞ、單純にすれば、それで足りると云ふのではないから、矢張り、單純化も亦合理的なるを要する次第である。展覽會の趨勢によりて判ずるときは漸次、それが合理化するものと考へられる。

それから、衣服の合理的方案を得ると云ふ建設的努力は今後のものと云ふことを暗示してゐる。これを提示したものは比較的乏しいやうに思はれが、今後必ず主力が寧ろ此の方面に傾注せられるであらうと思ふ。

住宅に於ても、廢物利用及び單純化と云ふことは明かに示されてゐた。汽車の便所を日本の家屋に應用するもの、廊下を改造して子供部屋とする事、臺所と居室とを經濟的に利用する事などはそれで、成安女學院よりは、新學年度より改造せらるべき筈の寄宿舎一部透視圖を出陳（寢床をベットに自習用机を椅子式に改造せるもの）して二重生活の改善を提示した。臺所設計圖も亦二十四

種の出陳を見た。協調會よりは各階級一人當り疊敷及地方別一人當り疊敷の圖解が掲げられた。府立第二高女の鍋の選び方は節約の本旨に副ひ、構想其宜しきを得てゐた。即ち、銅鍋は一升一合の水を九分三十秒で沸騰せしめ、アルミニウム鍋は九分五十三秒、鐵鍋は九分五十秒、珐瑯鍋は十分五秒、土鍋は十二分十三秒を要するとした。恐く、觀客に對し、鍋の經濟的利用を考へしめたであらう。平安女學校よりは、買物袋、林檎切り、馬鈴薯むき、瓶洗ひ、鍋洗ひ、卵切り、石鹼とき、コーヒ土瓶手覆ひ、防水前掛け、果物、皮むき、及び湯沸し等、獨逸、米國あたりの簡易便利にして安價なる西洋食器類の出陳があつた。京大建築學教室よりは、同教室所藏の住宅圖表及各種寫眞の出陳をした。即ち、文化住宅模型、日本住宅變遷圖、日本現代住宅様式發達圖、各種門の様式及び各種和洋住宅の寫眞數十枚が出陳された。住宅部は最も俗解しかねる部門であるが如く、觀覽者の足は極めて早いやうに見受けられた。併し、これも

程度のもので、時にノートを出だし、仔細に見聞を試みる婦人も多かつた。

食物の部に於ても、諸種の出陳があつて賑しきものがあつた。府立第一高女の米の成分の圖解、府立第二高女のカロリイを表示せる實物獻立、市役所のカロリイ模型各種、都購賣組合の米の比較、旭購買組合の茶の鑑識、市役所の牛肉の實物鑑識などは孰れも有益なものであつた。節約に關するものもこの部に著明であつた。陸軍糧秣廠の食品各種の見本及節約表、各地よりの浪費諷刺畫、市立第一高女の各階級の浪費圖解等孰れも節約運動の後をうけ節約を押し進める氣勢を示さぬものはない。

凡て、各部に於て、節約の意義は明かに表示されて居たのであるが、これは國民的節約運動の奏効を物語るもので、一般に漸次節約の意義が徹底して行つたやうに見へる。この次に來るものは單なる節約に加ふるに、合理的節約と云ふべきものである。食物の部門は今一層の注意を傾注すべきもので、今後、國

民の食物に心を勞せざるべからざるもの多大である。蓋し、生活に於て、食物程重要なものはないと云つて宜い。で、今後、食物に就ては、積極的合理的方案の必要が一層加はるに違ひない。

展覽會の表示するところによれば、衣食住を各分斷して考案することなく、これを一つの系統に纏め、生活上の系統を立つることが必要である。我々の生活は單に食ひ、着且つ住ふのでなく、文化人として、生活の各方面に現はるゝ現象が或は食ふことであり、或は着ることであり、或は住ふことであるから、抑々、これを取り纏めた本源としての全国的な生活それ自からの研究が肝要になるわけである。生活を改善し、更らに、これを文化人としての健全快適なるものとせむと欲すれば、必ずや、生活系統の方案を攻究することに進まなければならぬ。

展覽會を見舞ふた人々の七八割は有識階級の主婦であつたが、生活改善的興味は先づ此際衣服よより發するものと解釋すべきであらう。夫婦相伴ふて觀覽し、顯要なる人々、大學教授、官吏及び有産者を多く認むることが出來、且つ熱心に研究的態度を以て觀覽したと云ふことは、孰れにしても喜ばしき現象たらざるを得ぬ。やがて斯る有識階級の主動により、國民生活が根本的に立て直される機運となるに違ひないと思ふ。

兒童保護問題 終

大正十三年九月一日印刷
大正十三年九月五日發行

內外社會叢書(2)
兒童保護問題

定價金壹圓貳拾錢



著者 海野幸徳

發行所 內外出版株式會社代表者
大谷仁兵衛

東京市下京區三條區御幸町四入

印刷者 村上勘兵衛
東京市下京區西洞院七條南入

發行所

東京市下京區西洞院七條南
東京市神田區錦町一ノ一九

內外出版株式會社

編輯穴版三二九五番
三九三一番

內外出版株式會社印刷部印刷

告豫刊近書叢會社外内

龍谷大學文學部教授
海野社會事業研究所長

海野幸徳著

一 學校と活動寫眞	大正十三年七月發賣
二 兒童保護問題	同年八月 同
三 現代の青年運動	同年十月 同
四 性教育の方法	同十二月 同
五 賣笑問題	大正十四年二月同
六 消費者の社會運動	同四月 同

龍谷大學文學部教授
海野社會事業研究所長 海野幸徳著

内外社會
叢書
第一編

學校と活動寫眞

四六版二百四十頁
バヒリン美裝
定價金壹圓貳拾錢
送料金拾八錢

- 第一章 活動寫眞と學童
- 第二章 活動寫眞の教授法としての價值
- 第三章 娛樂の本質と社會化
- 第四章 活動寫眞教授及方法
- 第五章 學校用映畫
- 第六章 教育映畫の效果

▼學校に活動寫眞教授を導入し、教授法の根本的改革、教科書の撤廢、學校構造の變改等教育上の革命を齎すべき諸問題を論議す……………。

龍谷大學文學部教授 海野幸徳著
海野社會事業研究所長

現代人の戀愛思想

四六版四百頁
バベリン美裝
定價貳圓五拾錢
送料拾九錢

- 第一章 現代人の亂行
- 第二章 現代人の性慾及戀愛觀
- 第三章 エレン・カイ女史の自由戀愛觀
- 第四章 戀愛と結婚との一致の要求
- 第五章 一夫一婦の倫理
- 第六章 兒童の基本的權利
- 第七章 戀愛至上の原理と批判
- 第八章 青年と道徳及宗教
- 第九章 性慾教育

近時、頻出する性的錯倒は現代人の性意識の分析により初めて其真相を明にす。本書は大野、有島、武者小路事件を分解批判し、米の現代戀愛思想を組織的に討究し、現代人生活の基調をなす性の意識を如實に深刻に縦横披開闡明す。著者は學問の利刀と道徳家の態度とを以て組織的に現代人の戀愛思想を研究し、我國最初の戀愛學として本書を性病に惱める現代に寄與す。近時、世人を驚異せしめし著名人士の性的錯倒の真相も茲に至り初めて明也。

龍谷大學文學部教授 海野幸徳著
海野社會事業研究所長

輓近の社會事業

- 第一章 我國の社會事業
- 第二章 貧民の社會政策
- 第三章 宗教の社會政策
- 第四章 社會事業の分權主義
- 第五章 社會事業家の資格
- 第六章 社會事業補助金の是非
- 第七章 市場政策
- 第八章 社會事業補助金の是非
- 第九章 方面委員制度
- 第十章 融和事業
- 第十一章 労働宿泊所の經營
- 第十二章 公設質屋の運用
- 第十三章 公設浴場の運用
- 第十四章 免囚保護政策
- 第十五章 優生學的社會政策

菊版五百頁
定價金四圓五拾錢
送料金貳拾七錢

我國社會事業學の權威者としての海野教授は我國に社會事業文籍の缺乏を憂ひ、これを完成するため、心血を瀉ぐ決心を固め陸籍、社會事業文籍を出版することゝなつたが、其先鋒として現はれたものが本書である。本書は現今隆盛を極めつつある社會事業の各部門を取扱ひ、かつ、これに明快親切なる解釋と批判とを施したもので恰も斯學文獻の缺乏せる今日、暗夜に燈火を得たるが如きものである。官公私の社會事業家は勿論、社會政策家、行政家、教育家及社會改良に志ある人士必讀の著作たるべし。

京都帝國大學 理學部 理學士 山本宣治著

性教育

四六版洋裝五百頁
定價金貳圓八拾錢
送料金貳拾錢

忽四版

因襲と獨斷に充滿した舊教育の徹底的顛覆——不合理不可能なる性的隱蔽主義の打破——知識的惡貨の濫賣者たる性的賣文者の驅逐——而して新時代の自由と真理を基礎とした性文化の黎明——其到來の爲に試みたる大膽小心なる實驗の報告——直譯受賣を脱却した對策の提案。

青年の爲には啓蒙による安心と開放による悦び——子を持つ親と教育者には無二の指針——一息に讀下さる程面白く、しかも長く座右に具ふべき參考書。

527

45

終